小中連携教育コーディネータ概論

「小中連携教育コーディネータ」

久世　均(岐阜女子大学)

小中連携教育コーディネータ

【目　的】

義務教育９年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて，小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために，教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき，時代の変化に対応した総合的な指導力を身につける中学校教育の新たなキャリアである小中連携教育コーディネータの養成カリキュラムについて考える.

【学習到達目標】

- 小中連携教育コーディネータついて説明できる。
- 小中連携教育コーディネータの活動について具体的に説明できる。

小中連携教育コーディネータ

1.小中連携教育コーディネータ

義務教育９年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて，小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために，教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき，時代の変化に対応した総合的な指導力を身につけることにより，小中連携教育をコーディネートできる人材

２．対象者

次の①～③に該当する方とする。
次の（1）～（3）に該当する方とします。
（1）中学校教諭普通免許状所持者で，基礎資格となる免許状を取得した後，当該学校における教諭等として在職年数が３年以上の方。（(1)に該当する方については，コース修了により小学校２種免許状を申請可能）
（２）小学校や中学校教諭免許状所持者でスキルアップを目指す方。
（３）小学校や中学校にお勤めで，小中連携に興味がある方。

小中連携教育コーディネータ養成コース

目　的

義務教育９年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために、教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき、時代の変化に対応した総合的な指導力を身につけることにより、小中連携教育をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ること。

履修証明制度とは、学校教育法第１０５条及び学校教育法施行規則第１６４条の規定に基づき、大学が教育や研究に加えてより積極的な社会貢献として、主として社会人向けに体系的な学習プログラムを開設し、その修了者に対して、法に基づく履修証明書を交付するもの。

【履修証明プログラム】
本認定制度は、大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」（BP）として文部科学大臣が認定するもの。

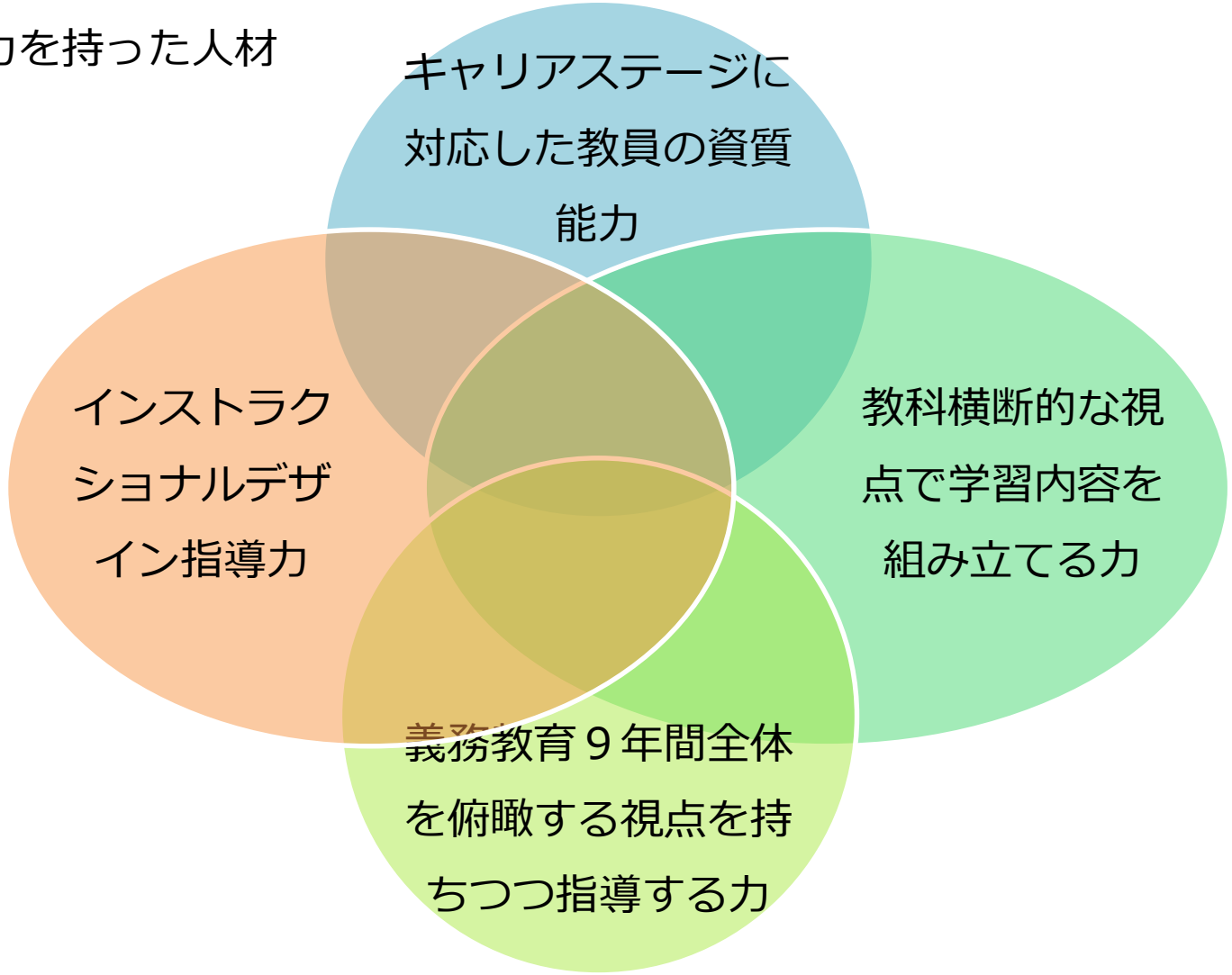
コース名	小中連携教育コーディネータ養成コース　　(第１期～第２期（100名定員/期）)
趣旨・内容	本課程は、義務教育９年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために、教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき、時代の変化に対応した総合的な指導力を身につけることにより、小中連携をコーディネートできる人材の育成や、その能力の向上を図ること。を目的とします。
対象者	次の（1）～（3）に該当する方とします。 （1）中学校教諭1種並びに２種免許状所持者で、基礎資格となる免許状を取得した後、当該学校における教諭等として在職年数が、３年以上の方。 （(1)に該当する方については、小学校２種免許状を取得可能） （2）小学校や中学校教諭免許状所持者でスキルアップを目指す方。 （3）小学校や中学校にお勤めで、小中連携に興味がある方。
総時間数	６科目　12単位　90時間（履修証明プログラムは60時間以上）
コース修了条件	各講習における試験またはレポートによる最終試験を全て合格すること。
出願書類	1.　履修証明プログラム受講申請書 2.　写真　２枚

1. 本プログラム修了者は、本学の単位としても認定する。

2. 履修証明プログラム履修生への「通学証明書」「学割証」「成績証明書」等は発行しない。

小中連携教育コーディネータに求められる資質能力

■複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた時代の変化に対応した総合的
な指導力を持った人材

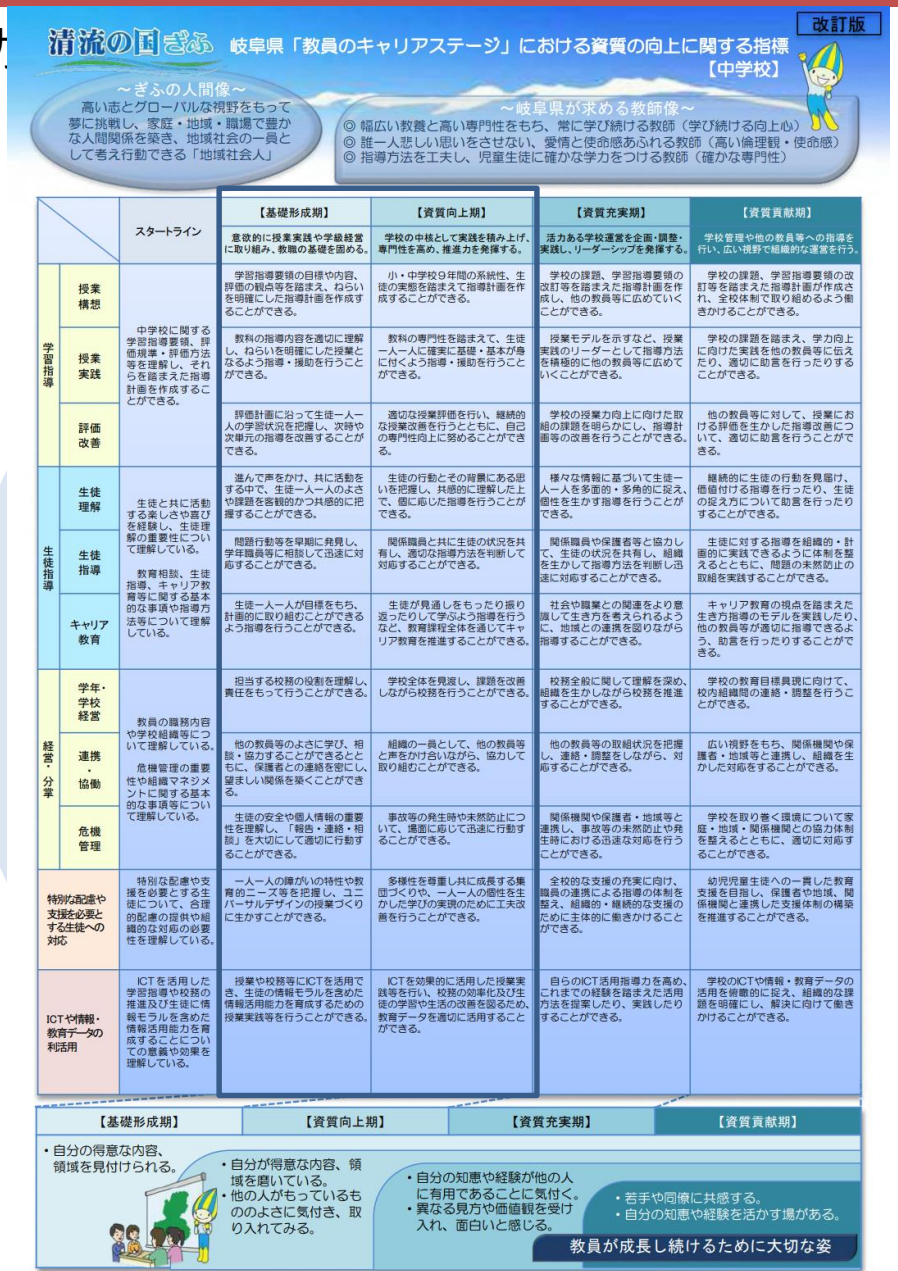


キャリアステージに対応した教員の資質能力（岐阜県）

キャリアステージに対応した教員の資質能力

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標　改訂版【中学校】における 【基礎形成期】並びに【資質向上期】（令和3年10月）

学 習 指 導	授業構想
	授業実践
	評価改善
生徒指導	生徒理解
	生徒指導
	キャリア教育
経営・分掌	学年・学校経営
	連携・協働
	危機管理
特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応	
ICTや情報・教育データの利活用	



清流の国ぎふ　岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標【中学校】　改訂版

～ぎふの人間像～
高い志とグローバルな視野をもって夢に挑戦し、家庭・地域・職場で豊かな人間関係を築き、地域社会の一員として考え行動できる「地域社会人」

～岐阜県が求める教師像～
◎ 幅広い教養と高い専門性をもち、常に学び続ける教師（学び続ける向上心）
◎ 誰一人悲しい思いをさせない、愛情と使命感あふれる教師（高い倫理観・使命感）
◎ 指導方法を工夫し、児童生徒に確かな学力をつける教師（確かな専門性）

		スタートライン	【基礎形成期】	【資質向上期】	【資質充実期】	【資質貢献期】
			意欲的に授業実践や学級経営に取り組み、教職の基礎を固める。	学校の中核として実践を積み上げ、専門性を高め、推進力を発揮する。	活力ある学校運営を企画・調整・実践し、リーダーシップを発揮する。	学校管理や他の教員等への指導を行い、広い視野で組織的な運営を行う。
学習指導	授業構想	中学校に関する学習指導要領、評価規準・評価方法等を理解し、それらを踏まえた指導計画を作成することができる。	学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。	小・中学校９年間の系統性、生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。	学校の課題、学習指導要領の改訂等を踏まえた指導計画を作成し、他の教員等に広めていくことができる。	学校の課題、学習指導要領の改訂等を踏まえた指導計画が作成され、全校体制で取り組めるよう働きかけることができる。
	授業実践		教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。	教科の専門性を踏まえて、生徒一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。	授業モデルを示すなど、授業実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員等に広めていくことができる。	学校の課題を踏まえ、学力向上に向けた実践を他の教員等に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。
	評価改善		評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次単元の指導を改善することができる。	適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うとともに、自己の専門性向上に努めることができる。	学校の授業力向上に向けた取組の課題を明らかにし、指導計画等の改善を行うことができる。	他の教員等に対して、授業における評価を生かした指導改善について、適切に助言を行うことができる。
生徒指導	生徒理解	生徒と共に活動する楽しさや喜びを経験し、生徒理解の重要性について理解している。 教育相談、生徒指導、キャリア教育等に関する基本的な事項や指導方法等について理解している。	進んで声をかけ、共に活動をする中で、生徒一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。	生徒の行動とその背景にある思いを把握し、共感的に理解した上で、個に応じた指導を行うことができる。	様々な情報に基づいて生徒一人一人を多面的・多角的に捉え、個性を生かす指導を行うことができる。	継続的に生徒の行動を見届け、価値付ける指導を行ったり、生徒の捉え方について助言を行ったりすることができる。
	生徒指導		問題行動等を早期に発見し、学年職員等に相談して迅速に対応することができる。	関係職員と共に生徒の状況を共有し、適切な指導方法を判断して対応することができる。	関係職員や保護者等と協力して、生徒の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。	生徒に対する指導を組織的・計画的に実践できるように体制を整えるとともに、問題の未然防止の取組を実践することができる。
	キャリア教育		生徒一人一人が目標をもち、計画的に取り組むことができるよう指導を行うことができる。	生徒が見通しをもったり振り返ったりして学ぶよう指導を行うなど、教育課程全体を通じてキャリア教育を推進することができる。	社会や職業との関連をより意識して生き方を考えられるように、地域との連携を図りながら指導することができる。	キャリア教育の視点を踏まえた生き方指導のモデルを実践したり、他の教員等が適切に指導できるよう、助言を行ったりすることができる。
経営・分掌	学年・学校経営	教員の職務内容や学校組織等について理解している。 危機管理の重要性や組織マネジメントに関する基本的な事項等について理解している。	担当する校務の役割を理解し、責任をもって行うことができる。	学校全体を見渡し、課題を改善しながら校務を行うことができる。	校務全般に関して理解を深め、組織を生かしながら校務を推進することができる。	学校の教育目標具現に向けて、校内組織間の連絡・調整を行うことができる。
	連携・協働		他の教員等のよさに学び、相談・協力することができるとともに、保護者との連絡を密にし、望ましい関係を築くことができる。	組織の一員として、他の教員等と声をかけ合いながら、協力して取り組むことができる。	他の教員等の取組状況を把握し、連絡・調整をしながら、対応することができる。	広い視野をもち、関係機関や保護者・地域等と連携し、組織を生かした対応をすることができる。
	危機管理		生徒の安全や個人情報の重要性を理解し、「報告・連絡・相談」を大切にして適切に行動することができる。	事故等の発生時や未然防止について、場面に応じて迅速に行動することができる。	関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。	学校を取り巻く環境について家庭・地域・関係機関との協力体制を整えるとともに、適切に対応することができる。
特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応		特別な配慮や支援を必要とする生徒について、合理的配慮の提供や組織的な対応の必要性を理解している。	一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、ユニバーサルデザインの授業づくりに生かすことができる。	多様性を尊重し共に成長する集団づくりや、一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫改善を行うことができる。	全校的な支援の充実に向け、職員の連携による指導の体制を整え、組織的・継続的な支援のために主体的に働きかけることができる。	幼児児童生徒への一貫した教育支援を目指し、保護者や地域、関係機関と連携した支援体制の構築を推進することができる。
ICTや情報・教育データの利活用		ICTを活用した学習指導や校務の推進及び生徒に情報モラルを含めた情報活用能力を育成することについての意義や効果を理解している。	授業や校務等にICTを活用でき、生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。	ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。	自らのICT活用指導力を高め、これまでの経験を踏まえた活用方法を提案したり、実践したりすることができる。	学校のICTや情報・教育データの活用を俯瞰的に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。

【基礎形成期】	【資質向上期】	【資質充実期】	【資質貢献期】
・自分の得意な内容、領域を見付けられる。	・自分が得意な内容、領域を磨いている。 ・他の人がもっているもののよさに気付き、取り入れてみる。	・自分の知恵や経験が他の人に有用であることに気付く。 ・異なる見方や価値観を受け入れ、面白いと感じる。	・若手や同僚に共感する。 ・自分の知恵や経験を活かす場がある。

教員が成長し続けるために大切な姿

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

	学校に活力を与える！ **採用ステージ** （１年目）	担当校務をしっかり担う！ **基礎ステージ** （概ね３年目前後）	教育活動を推進する！ **充実ステージ** （概ね８年目前後）	中心的な役割を果たす！ **発展ステージ** （概ね13年目前後）	全校的な視点から学校を支える！ **指導ステージ** （概ね18年目以降）
ステージ像	○教育活動に関する基礎的・基本的な知識・技能等を生かして、児童生徒等の実態等を踏まえた教育活動を実践することができる。 ○沖縄県の教員としての自覚を持ち、チームとしての学校の一員として、他の教職員に積極的に指導・助言を求めながら、連携・協働体制のもとで、担当する校務に取り組むことができる。	○教育活動に関する知識・技能等を生かして、児童生徒等の実態等に応じた教育活動を実践することができる。 ○チームとしての学校の一員として、他の教職員と連携・協働しながら、担当する校務を担うことができる。	○教育活動に関する知識・技能等を充実させ、創意工夫を生かした教育活動を実践・推進することができる。 ○経験の浅い教職員に積極的に関わる等、同僚性の向上や連携・協働の充実を図り、連携・協働体制の構築を推進することができる。	○自らの経験や強み等を生かして、学校全体の状況や地域の実態等を踏まえた教育活動を効果的に推進することができる。 ○学年や分掌等の連携・協働体制において、中心的な役割を果たし、他の教職員に指導・助言をすることができる。	○豊かな知識・技能や経験等を生かして、全校的な視点から、教育活動をより効果的・効率的に推進することができる。 ○全校的な視点から、チームとしての学校の連携・協働体制を支え、他の教職員を適切に支援・育成することができる。

教職を支える力	**倫理観・使命感・責任感**
	○教育公務員として、子供たちの成長を担う尊い使命を県民から託されていることを自覚し、より高い倫理観と強い使命感、責任感を持って行動することができる。
	教育的愛情・人権意識
	○先生として、日々、子供たちと向き合い、その成長に大きな影響を与える存在として、真の教育的愛情及び高い人権意識を持って子どもたちと関わることができる。
	豊かな人間性・学び続ける力
	○教師として、今を生き、未来を拓く子供たちを導くために、自らの感性を高め、豊かな人間性を養い、高度専門職業人として、学び続けることができる。

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

	学校に活力を与える！ 採用ステージ （１年目）	担当校務をしっかり担う！ 基礎ステージ （概ね３年目前後）	教育活動を推進する！ 充実ステージ （概ね８年目前後）	中心的な役割を果たす！ 発展ステージ （概ね13年目前後）	全校的な視点から学校を支える！ 指導ステージ （概ね18年目以降）
生徒指導力	児童生徒理解				
	○児童生徒理解の意義を理解し、資料・情報収集の方法や人格・心理の発達特性等の基礎的・基本的な知識・技能等を身に付けている。 ○共感的・受容的態度で児童生徒等と向き合い、適切なコミュニケーションにより信頼関係を築くことができる。 ○必要な資料・情報を収集し、個々の児童生徒等及び児童生徒集団の実態把握に努めることができる。	○適切なコミュニケーションや丁寧な観察、保護者との連携、調査等を活用して、資料・情報を適切に収集し、他の教職員と共有することができる。 ○収集した資料・情報を知識や理論等に照らして分析し、個々の児童生徒等及び学級等の児童生徒集団の実態を把握することができる。	○児童生徒理解に関する知識・技能等を充実させ、創意工夫を生かして、個々の児童生徒等だけでなく学年等の児童生徒集団についても適切に実態を把握することができる。	○自らの経験や強み等を生かして、学校全体の状況や地域の実態等を踏まえた児童生徒理解の組織的・計画的な取組を効果的に推進することができる。	○豊かな知識・技能や経験等を生かして、全校的な視点から、児童生徒理解の取組をより効果的・効率的に推進することができる。
	個別指導・集団指導				
	○各教科や総合的な学習の時間、特別活動等の各時間における生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義を理解している。 ○ガイダンスの機能の充実を図る取組や教育相談等を計画的に実施し、児童生徒等の実態等を踏まえた学級経営等を実践することができる。 ○他の教職員に積極的に指導・助言を求めながら、連携・協働体制のもとで、問題行動の未然防止及び早期発見、早期対応に努めることができる。	○各教科や総合的な学習の時間、特別活動等の各時間の特色を生かした生徒指導、進路指導及びキャリア教育の取組を実践することができる。 ○ガイダンスの機能の充実を図る取組や教育相談等を適切に実施し、児童生徒等の実態等に応じた生徒指導を実践することができる。 ○生徒指導上の課題等について、学校内外の関係者と連携・協働し、組織的な解決を図ることができる。	○生徒指導、進路指導及びキャリア教育に関する知識・技能等を充実させ、創意工夫を生かした取組を実践・推進することができる。 ○個々の児童生徒等だけでなく学年等の児童生徒集団に対する指導にも積極的に関わり、組織的・計画的な指導を図ることができる。 ○経験の浅い教職員に積極的に関わる等、生徒指導の連携・協働体制の構築を推進することができる。	○自らの経験や強み等を生かして、学校全体の状況や地域の実態等を踏まえた生徒指導、進路指導及びキャリア教育の組織的・計画的な取組を効果的に推進することができる。 ○学年や分掌等における生徒指導の連携・協働体制において、中心的な役割を果たし、他の教職員に指導・助言をすることができる。	○豊かな知識・技能や経験等を生かして、全校的な視点から、生徒指導、進路指導及びキャリア教育の取組をより効果的・効率的に推進することができる。 ○生徒指導の連携・協働体制を支え、他の教職員に適切な指導・助言をすることができる。

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

	学校に活力を与える！ 採用ステージ （１年目）	担当校務をしっかり担う！ 基礎ステージ （概ね３年目前後）	教育活動を推進する！ 充実ステージ （概ね８年目前後）	中心的な役割を果たす！ 発展ステージ （概ね13年目前後）	全校的な視点から学校を支える！ 指導ステージ （概ね18年目以降）
授業実践力	指導計画（Plan）				
	○学習指導要領を踏まえた指導計画を立てることができる。 ○教材研究の意義を理解し、丁寧な教材研究を行うことができる。 ○教材の提示方法や指導形態、評価規準の設定等の学習指導に関する基礎的・基本的な知識・技能等を生かして、児童生徒等の実等態等を踏まえた指導計画を立てることができる。	○学習指導要領や沖縄県のめざす授業像を自らの指導実践と関連付けた指導計画を立てることができる。 ○教材研究を丁寧に行い、学習指導に関する知識・技能等を生かして、児童生徒等の実態等に応じた指導計画を立てることができる。	○教材研究を充実させ、創意工夫を生かして、個に応じた指導の充実を図る適切な指導計画を立てることができる。 ○経験の浅い教員に積極的に関わる等、他の教員と連携・協働して、系統的・体系的な指導計画を立てることができる。	○これまでの教材研究や授業研究の成果等を生かして、個に応じた指導の充実を図り、学校全体の状況や地域の実態等を踏まえた効果的な指導計画を立てることができる。 ○教科や学年等における指導計画の作成において、中心的な役割を果たし、他の教員に指導・助言をすることができる。	○豊かな教材観や経験等を生かして、全校的な視点から、より効果的・効率的な指導計画を立てることができる。 ○指導計画の作成において、校内の連携・協働体制を支え、他の教員に適切な指導・助言をすることができる。
	授業実践（Do）・学習評価（Check）				
	○板書や発声の仕方、机間指導等の授業実践に関する基礎的・基本的な知識・技能等を生かして、指導計画を踏まえた授業を展開することができる。 ○学習規律及び支持的風土の確立、学習環境の整備の重要性を理解し、その実現に努めることができる。	○発問の仕方や学習形態の工夫等の授業実践に関する知識・技能等を生かして、児童生徒等の実態等に応じた授業を展開することができる。 ○学習規律及び支持的風土を確立し、適切な学習環境を整備することができる。	○新たな教材や教具及びICTの活用等の授業実践に関する知識・技能等を充実させ、創意工夫を生かして、個に応じた指導の充実を図ることができる。	○これまでの授業実践の成果や自らの強み等を生かして、個に応じた指導の充実を図り、効果的な授業を展開することができる。	○豊かな知識・技能や経験等を生かして、児童生徒等一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かす模範的な授業を展開することができる。
	○学習評価の意義を理解し、評価規準や評価方法、目標に準拠した評価等の学習評価に関する基礎的・基本的な知識・技能等を身につけている。 ○他の教員に積極的に指導・助言を求めながら、連携・協働体制のもとで、児童生徒等の実態等を踏まえた適切な学習評価の実施に努めることができる。	○評価規準や評価方法、評価時期等を児童生徒等の実態等に応じて設定し、適切な学習評価を実施することができる。 ○他の教員と連携・協働して、組織的・計画的な学習評価を実施することができる。	○学習評価に関する知識・技能等を充実させ、創意工夫を生かして、学習評価の妥当性や信頼性等の向上を図る取組を実践・推進することができる。	○これまでの経験や知識・技能等を生かして、学校全体の状況や地域の実態等を踏まえた効果的な学習評価の実施を推進することができる。	○豊かな知識・技能や経験等を生かして、全校的な視点から、より効果的・効率的な学習評価の実施を推進することができる。
	授業研究（Check）・改善（Action）				
	○学習指導と学習評価の一体化の意義を理解している。 ○他の教員に積極的に指導・助言を求めながら、連携・協働体制のもとで、日々の授業研究・改善に取り組むことができる。	○学習指導と学習評価の一体化を図り、日々の授業研究・改善に取り組むことができる。 ○自らの授業を公開したり、他の教員の授業を参観する等、他の教員と連携・協働して、授業研究・改善に取り組むことができる。	○研究授業の実施や研修会の参加等の授業研究・改善の取組を充実させることができる。 ○経験の浅い教員に積極的に関わる等、他の教員と連携・協働して、授業研究・改善の体制構築を推進することができる。	○これまでの成果や自らの強み等を生かして、授業研究・改善のさらなる充実に取り組むことができる。 ○授業研究・改善の取組において、中心的役割を果たし、示範授業等を行うことができる。	○授業研究・改善のさらなる充実や新たな課題への対応等に取り組み、理想の授業を追求し続けることができる。 ○豊かな知識・技能や経験等を生かして、他の教員の授業に対して適切な指導・助言をする等、授業研究・改善の風土の醸成に努めることができる。

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

キャリアステージに対応した教員の資質能力（沖縄県）

	学校に活力を与える！ 採用ステージ （１年目）	担当校務をしっかり担う！ 基礎ステージ （概ね３年目前後）	教育活動を推進する！ 充実ステージ （概ね８年目前後）	中心的な役割を果たす！ 発展ステージ （概ね13年目前後）	全校的な視点から学校を支える！ 指導ステージ （概ね18年目以降）
学校運営力	**連携・協働**				
	○沖縄県の教員としての自覚を持ち、チームとしての学校の一員として、他の教職員に積極的に指導・助言を求めながら、連携・協働体制のもとで、担当する校務に取り組むことができる。 ○保護者と適切なコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことができる。	○チームとしての学校の一員として、他の教職員と連携・協働しながら、担当する校務を担うことができる。 ○学校と地域や関係機関等との信頼関係の構築に努めることができる。	○経験の浅い教職員に積極的に関わる等、同僚性の向上や連携・協働の充実を図り、連携・協働体制の構築を推進することができる。 ○学校と保護者や地域、関係機関等との連携・協働体制の構築を推進することができる。	○学年や分掌等の連携・協働体制において、中心的な役割を果たし、他の教職員に指導・助言をすることができる。 ○学校と保護者や地域、関係機関等との連携・協働体制において中心的役割を果たすことができる。	○全校的な視点から、チームとしての学校の連携・協働体制を支え、他の教職員を適切に支援・育成することができる。 ○全校的な視点から、学校と保護者や地域、関係機関等との連携・協働体制を支えることができる。
	安全・危機管理				
	○学級活動等における児童生徒等の活動について常に安全を確保し、事故等の未然防止に努めることができる。 ○事故等が発生した場合の緊急対応体制を把握し、発生時には他の教職員と連携・協働体制のもとで、適切に対応することができる。	○安全・危機管理体制における自らの役割を理解し、他の教職員と連携・協働しながら、その役割を担うことができる。	○危険箇所の指摘や事故の未然防止に向けた取組について提案する等、安全・危機管理の充実を図ることができる。	○学年や分掌等の安全・危機管理体制において、中心的役割を果たし、学校の状況や地域の実態等を踏まえた安全・危機管理の徹底を図ることができる。	○全校的な視点から、学校の安全・危機管理体制を支え、効果的な体制整備や安全・危機管理の徹底を図る取組等について、他の教職員に適切な指導・助言をすることができる。
	課題解決				
	○他の教職員に積極的に指導・助言を求めながら、連携・協働体制のもとで、課題の発見及び解決に努めることができる。	○担当する校務について、常に改善の視点を持ち、課題の発見及び解決に取り組むことができる。	○課題を示したり、解決に向けた取組を提案する等、校内の課題解決を推進することができる。	○課題解決に向けた効果的な取組を推進し、他の教職員に指導・助言をする等、中心的役割を果たすことができる。	○全校的な視点から、課題解決に向けたより効果的・効率的な取組を支え、他の教職員に適切な指導・助言をすることができる。
	事務処理				
	○計画的に作業に取り組み、正確な処理及び期限を守る等の適切な管理に努めることができる。	○正確な処理及び期限を守る等の適切な管理を行うと共に、タイムマネジメントの視点からより効率的な事務処理に努めることができる。	○他の教職員の事務処理等にも配慮しながら、自らの事務処理を調整する等、事務処理の連携・協働の充実を図ることができる。	○校内の事務処理体制や処理内容等について改善案を提案する等、事務処理の適正化・効率化の取組において中心的役割を果たすことができる。	○全校的な視点から、より適正で効率的な事務処理について、他の教職員に適切な指導・助言をすることができる。
	情報活用・管理				
	○必要な情報を適切に収集し、その妥当性や信頼性等を判断して、法令等に従い適正に活用することができる。 ○個人情報の漏えい等の防止を図り、規定等に従った適正な情報管理を行うことができる。	○幅広い情報収集に努め、収集・活用している情報を他の教職員と積極的に共有することができる。 ○個人情報の取扱い等について、他の教職員と情報共有を図り、情報管理の徹底に努めることができる。	○教育活動等の充実に向け、有用な情報を校内で積極的に発信することができる。 ○他の教職員と連携・協働して、情報管理体制の強化を推進することができる。	○学校活性化に向け、他の教職員と連携・協働して、校外への情報発信を推進することができる。 ○学年や分掌等の情報管理体制において、中心的役割を果たし、適正な情報管理について、他の教職員に指導・助言をすることができる。	○全校的な視点から、学校の情報管理体制を支え、効果的な体制整備や情報管理の徹底を図る取組等について、他の教職員に適切な指導・助言をすることができる。

小中連携教育コーディネータに求められる資質能力（１）

岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標　【中学校・資質向上期】

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標　改訂版【中学校】における 【基礎形成期】並びに【資質向上期】（令和3年10月）

資質・能力カテゴリー		小中連携コーディネータに求められる資質能力
学 習 指 導	授業構想	(1)学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。 (2)小・中学校９年間の系統性、生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。
	授業実践	(1)教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。 (2)教科の専門性を踏まえて、生徒一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。
	評価改善	(1)評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次単元の指導を改善することができる。 (2)適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うとともに、自己の専門性向上に努めることができる。
生徒指導	生徒理解	(1)進んで声をかけ、共に活動をする中で、生徒一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。 (2)生徒の行動とその背景にある思いを把握し、共感的に理解した上で、個に応じた指導を行うことができる。
	生徒指導	(1)問題行動等を早期に発見し、学年職員等に相談して迅速に対応することができる。 (2)関係職員と共に生徒の状況を共有し、適切な指導方法を判断して対応することができる。
	キャリア教育	(1)生徒一人一人が目標をもち、計画的に取り組むことができるよう指導を行うことができる。 (2)生徒が見通しをもったり振り返ったりして学ぶよう指導を行うなど、教育課程全体を通じてキャリア教育を推進することができる。
経営・分掌	学年・学校経営	(1)担当する校務の役割を理解し、責任をもって行うことができる。 (2)学校全体を見渡し、課題を改善しながら校務を行うことができる。
	連携・ 協働	(1)他の教員等のよさに学び、相談・協力することができるとともに、保護者との連絡を密にし、望ましい関係を築くことができる。 (2)組織の一員として、他の教員等と声をかけ合いながら、協力して取り組むことができる。
	危機管理	(1)生徒の安全や個人情報の重要性を理解し、「報告・連絡・相談」を大切にして適切に行動することができる。 (2)事故等の発生時や未然防止について、場面に応じて迅速に行動することができる。
特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応		(1)一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、ユニバーサルデザインの授業づくりに生かすことができる。 (2)多様性を尊重し共に成長する集団づくりや、一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫改善を行うことができる。
ICTや情報・教育データの利活用		(1)授業や校務等にICTを活用でき、生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。 (2)ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。

小中連携教育コーディネータに求められる資質能力（２）

インストラクショナルデザイン指導力

※　インストラクショナルデザイン指導力：学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を幼児教育に普及できる指導力。
※　インストラクショナルデザインとは、「何を（What）できるようにするのか？」を明確にしたうえで、「どうやって（How）できるようにする
　　のか」をルールに基づいて体系的に考えることにより、効果的・効率的・魅力的な教育プログラムを作成するための方法論。

資質・能力カテゴリー		小中連携コーディネータに必要な資質・能力
インストラクショナルデザイン指導力	インストラクショナルデザイン 研修成果の評価 ワークショップ	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に役立つ自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
	教育リソース	(6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現にための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。

課　題

1. 小中連携教育コーディネータついて説明しなさい。

2. 小中連携教育コーディネータの活動について具体的に説明しなさい。

3. ペダゴジー（pedagogy）とアンドラゴジー（andragogy）に違いについて

4. 具体例を挙げて説明しなさい

小中連携教育コーディネータ

【目　的】

義務教育９年間全体を俯瞰する視点を持つことを通じて，小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育を行うために，教科横断的な視点で学習内容を組み立てることができる幅広い理解に基づき，時代の変化に対応した総合的な指導力を身につける中学校教育の新たなキャリアである小中連携教育コーディネータの養成カリキュラムについて考える.

【学習到達目標】

- 小中連携教育コーディネータついて説明できる。
- 小中連携教育コーディネータの活動について具体的に説明できる。

小中連携教育コーディネータ概論

「小中連携教育コーディネータ」

久世　均(岐阜女子大学)